

## 式 辞

先週までの厳しい寒さからほんの少し春の兆しが、この長田の地にも感じられる今日の佳き日に、令和6年度兵庫県立長田商業高等学校卒業証書授与式がこのように、本校同窓会凌霄会会長 安福滋 様をはじめ、保護者・ご家族の皆様のご臨席を賜り、挙行できますことを大変嬉しく思います。

ただいま卒業証書を授与いたしました本科4年3名、3年19名、情報経理専修コース13名の卒業生のみなさん、ご卒業、誠におめでとうございませう。

定時制での3カ年または4カ年の教育課程を、情報経理専修コースにおいては2カ年の教育課程を無事終了されたみなさんの努力と精進に心からの拍手を送ります。

みなさんの多くは、朝早くから夕方まで仕事やアルバイトに精を出し、勤労を常にしてこられました。夕刻、多くの人々は、家路に就き、ゆっくりと体を休める頃、疲れた体に鞭を打ち、登校し夜遅くまで勉学を中心に学校行事にと励まれました。その苦勞と努力は誰もが認めるところであります。

また、本科保護者の皆様におかれましても、入学以来、時にはぶつかり、ともに悩み、励まし、日々支えてこられたご苦勞と、我が子の成長を大きく実感される今日の日であろうと心よりお祝い申し上げます。

さて今、卒業式に臨み、皆さんの胸にはどのような思いがこみ上げているでしょうか。

まずは、本科の皆さんに申し上げます。

振り返れば、皆さんの高校生活はコロナ禍により活動が制限された中での長商でのスタートでした。高校時代の1・2年間、コロナ禍で学校行事や登校が制限される中で戸惑うことが多く、高校に慣れるまでにつらいことやくじけそうになった日もあったのではないのでしょうか。しかし、このような困難を乗り越え勉学は勿論、学校行事や資格取得など夢や目標に向かって挑戦を続けてこられました。本科4年は2年次に進級したメンバーのほとんどの生徒が卒業を迎えることができました。本科3年においては、学科改編の創造ビジネス科1期生として、例年に比べてたくさんの入学生を迎え入れ、ほとんどの生徒が今日卒業を迎えることができるのはこの上ない喜びであります。本科4年の皆さんは、中間考査の廃止をはじめとする今年度の本校の新しい取組に抵抗感があつたことは、この長商の定時制のサイクルに3年間で馴染んでいた証だと思っています。そんな中で、各種学校行事において3卒した卒業生が顔を出し和やかな表情をしてきていたことを昨日のように思い出されます。本科3年生の皆さんは、関わる先生方との出会いと別れの経験を重ね、先生方に感謝の気持ちを形にする中で日々遅く成長する姿を見ることができ嬉しく思いました。昨年初めて実施した高取山への遠足では3年生全員が参加し、高校卒業への「希望」が前進しましたね。そして、何より本校の特色ある教育活動である学校内株式会社 NAGAZON は本科3年生の入学とともに、初年度の取組がスタートしました。2年目には、授業の中で縦割りの活動もスタートし皆さんが2・3年生として後輩へレクチャーする立場となりました。このようにして、徐々に生徒主体の活動へシフトし、開発商品も増やすことができました。その中で最も嬉しかったのはこの活動を通して皆さんの心の成長が見れたことです。入学時の自分を思い浮かべてください。自信が持てなかつた頃と比較して、人前で話したり発表する機会が増え、経験していくことにより、積極性が増し堂々とした時には笑顔のあるプレゼンテーションへと日に日に成長していく姿が伝わりました。

次に、専修コースの皆さんに申し上げます。

このたび卒業を迎えられる専修コースは19名と多くの方が入学され、本科の生徒も含め多くの生徒の元気な声により賑やかな長田商業となりました。何でもそうですが人数が増えることにより活気があふれます。皆さんは、仕事が終わってから、あるいは家庭の用

事を終えた後での登校は、時間のやりくりが本当に大変だったのではないのでしょうか。皆さんが熱心に授業に取り組まれ、これまでに確か本校初の検定資格に挑戦して合格されたこと、大変嬉しかったです。更にはこちらに、時には温かく時には厳しくご指摘いただくこともありましたが、我々教職員も、また本科生にとっても皆様方の姿勢から学ぶことが多かったと思います。これも専修コースの生徒さんと教職員の距離が近いことの証だと思っています。授業を持っていない私にも気さくに声をかけていただいたり、なかなか校長室へ入っていただく機会がない中で、昨年6月にお祝いでいただいた胡蝶蘭の見学に校長室に入らせていただいたことは大変嬉しく思いました。人生100年時代という言葉がありますが、「自分の状況ややりたいことに合わせて学び続けていく」という姿勢はお手本を示していただいているように感じておりました。

学校行事においても、特に文化祭模擬店での手慣れた運営は流石とうならされるものでした。文化祭だけでなく、多くの学校行事に参加していただき、その交流から仲間との絆や気配りが感じられました。皆さんに、社会経験を活かし、NAGAZONの執行役員を担っていただいたり、会社運営に関する助言をいただけたりしたことも非常に心強いものでした。

卒業後は、本校で得た商業の知識やスキルを生かして、ご活躍され地域や社会において有意義な人生を送っていただきたいと思います。出会った方々との御縁を大切にされ、新たな一步を踏み出されることを期待しております。

さて、卒業生の皆さん、今日の日皆さんの人生において大きな区切りの日です。職業人として社会に踏み出す人にとっては、これから仕事を通じて人生や社会におけるいろいろな課題と向き合うこととなります。上級学校に進まれる人にとっては、さらに高度な学びの世界が待っており、更なる努力と研鑽が求められることとなります。皆さんの一層の奮励と努力を祈ってやみません。

明日から、新たなステージを歩まれるみなさんに「学び続けることの大切さ」のお話をして、餞(はなむけ)の言葉としたいと思います。

私は高校から大学に進学、大学卒業と同時に教師として勤めました。三月まで学生と呼ばれていた身分から、四月には先生と呼ばれる自分に戸惑いを感じました。しかしそれが現実です。ある区切りを越えると一瞬に立場が変わる。この変化を私自身どのように対応したかを申し上げますと、とにかく目の前のことを誠心誠意やり遂げることにかがむしゃらでした。わからないことは先輩に聞き、やり遂げたことに確認を求めました。よく考えてみると、何処にでもある、人として当たり前に行う対応そのものであり、みなさんが高校生活の中で行ってきた学習そのものではないのでしょうか。これからみなさんを待ち構える社会においても、その学びは何ら変わることはありません。すでに主体的な学びを身につけたみなさんにとって大いに自らの考えで飛躍できる時が来たのです。

高校入学時のコロナ禍の時の、目に見えない脅威に対する備えに象徴されるように、これからも厳しいことが多々あると思いますが、簡単に逃げずに新しいことに挑戦して下さい。人生は楽しいことより苦しいことの方がはるかに多いです。とって、青春に楽を覚えると将来はとてもしんどいでしょう。あえて、若い時に苦勞、つまり勉強してください。そのきっかけとして、わからないことや関心のあることは、すぐスマートフォンを取り出して調べてください。

みなさんは、一日を通じて、昼間は、社会での良き人間関係を構築しながら経済活動に精を出し、夕刻から級友と勉強に励んでこられました。また学校行事や学校内株式会社NAGAZONの取組を通じて一つのことを成し遂げる難しさと達成したときの喜びを経験し、人々の喜びや悲しみ、人生に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合っただけでございました。それらの経験を踏まえ、これからの生活の中で、押し寄せる幾つもの波を恐れることなく、立ち向

かっていって下さい。時には毅然とした態度で、時には優しく寄り添いながら解決できるものと思います。謙虚で学び続けることを忘れず、決して心折れることなく社会の一員として大きく成長されることを願っております。

終わりにになりましたが、本科保護者の皆様に申し上げます。本日まで、私どもの教育活動に、不十分な点もあったかと思いますが、皆様と手を携えて、生徒ひとり一人の夢の実現を支援するため、全教職員、力を合わせ教育にあたってまいりました。この間に保護者の皆様に賜りましたご支援ご協力に対しまして、高いところからではありますが、深く感謝申し上げます。

卒業生のみなさん、いよいよ旅立ちの時が来ました。明日からこの長田商業高校は、みなさんの母校となります。情報経理専修コースの方も含めて、時には、心を癒やしに母校を訪れ、恩師への近況報告、頑張っている後輩達がいたら声をかけてあげて後輩を見守り激励のために是非お気軽にお立ち寄りください。

皆様のご健康とご多幸、そしてこれからのご活躍を心よりお祈りし、式辞といたします。

令和7年2月26日

兵庫県立長田商業高等学校長  
松本秀孝